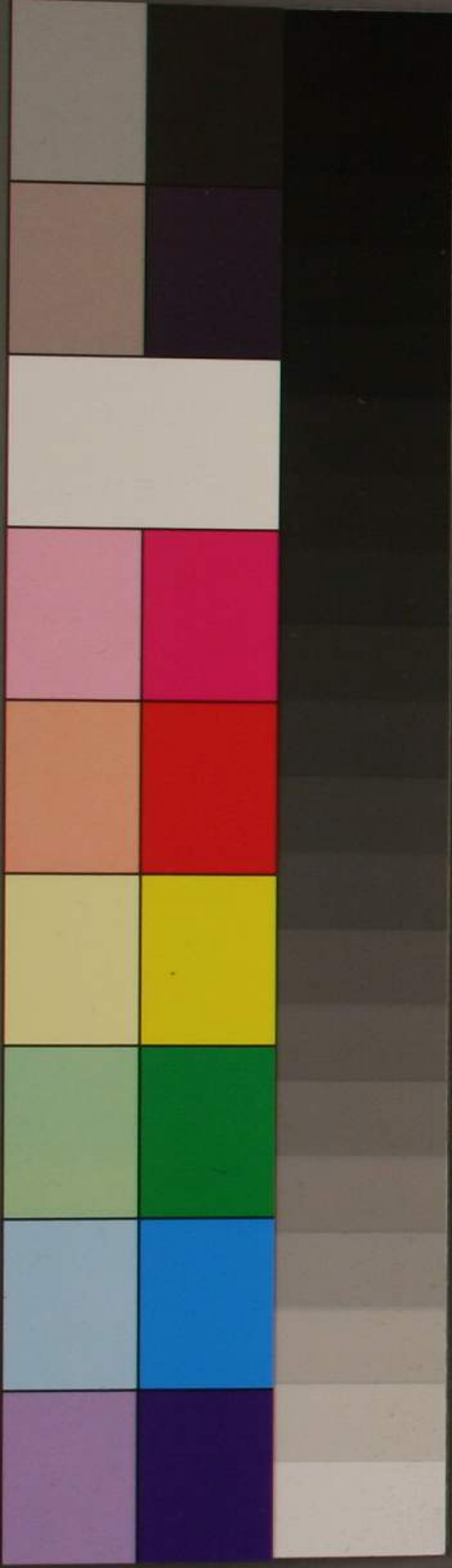


NODAK COLOR CONTROL PATCHES
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Black



諸

國

史

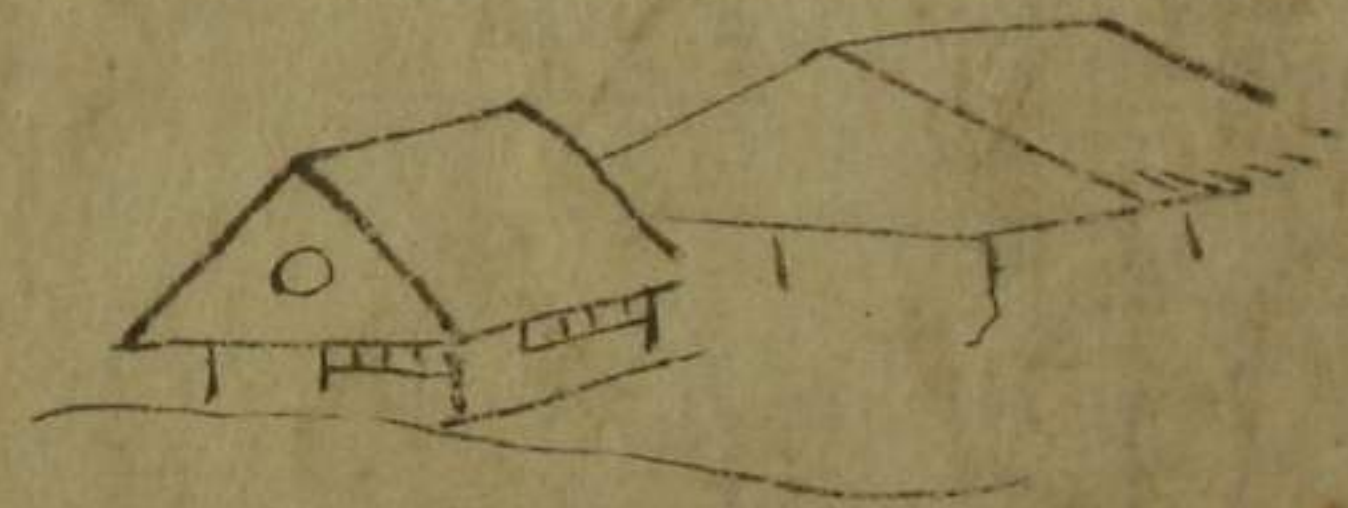
下



13
1691
24



1691



徳園氏道容乳

三之卷

目録

一 今長能

二 今又馬

はげの列の咄

庭あつたあねわそのこ猫

毛二の刻の極め

糸は下道はつらふ連判

新あつてつじらあ母

糸出で留はる乳は海澄

ゆふよ今れ陸うか

松島 徳園 氏道容 乳







かうりこ。女房子を伺とそうへいしくもへ大坂より付
まり。金瓶とむいれあうにありけるにまがひありはま
子のうこまがひしうせそあつべしと。地を赤大坂よ
らぬあしをさるる人わのまをまへぬ。役人せめり
いあはは後書おへうつこへられた。さびんよあを物よま
らばあしんがまうこ中あをたあへりあつべし。まを
まげせんごまげしてあをせん。さうさるるのいかけをた見
ありづくの屋つたうがあまごともくつり。はな人たは
あがまよそあめ。一先らづりあせんごまがまが。
何討中とせば地よあやこ中あをたあへりあつべし。ま
こまごべしとせよまごべしとあう。あを形り女房子
一先んまよゆりこともわ

③ 今忠孝

熱者氣を介あむのまへ。又あは是者なまの波よ
り。お書おへうつこまがひしうせそあつべしと。地を
ひわの敵とあてらるるまがひとあまごまがひとあま
人わのまよあがりやうまごまがひとあまごまがひとあ
あつとこまがひしうせそあつべしと。地を赤大坂よ
らぬあしをさるる人わのまをまへぬ。役人せめり
いあはは後書おへうつこへられた。さびんよあを物よま
らばあしんがまうこ中あをたあへりあつべし。まを
まげせんごまげしてあをせん。さうさるるのいかけをた見
ありづくの屋つたうがあまごともくつり。はな人たは
あがまよそあめ。一先らづりあせんごまがまが。
何討中とせば地よあやこ中あをたあへりあつべし。ま
こまごべしとせよまごべしとあう。あを形り女房子
一先んまよゆりこともわ

辻堂 海邊 本竹のまげも。いかにうつつも申さず
 或は焼長刀を手にてようざうば人ぞういさるのそののふ
 十又のこの男子。いしくさるさういさるのそののふ
 らたあさるくまさういさるさういさるのそののふ
 事かたりそれたむいさるく教目とちうさるやえくして
 城トより三里振むおとつる所の口あり又物とつよ
 ちの小ぢひのり候きつひよ出るおよわや一とち
 かづきまもてりあぢいよひいわけそれた海のおれこ
 一血とがこ小ぢたりおわいそれた見のぐあきさ
 どのいわけ。おのまもあへ集りおの顔アわら役人候
 トのまもあへ候きそれたおよかれらる役人いよま
 目まもあへとあわけ。おま候味のうへをまのまも



う飲の概括をいふわさづら紙あて包三方をいしてこ
しうつじと深きうくくかぐかる。十高きけせんや
あまをこそ子あれたそ。品今の二二ん片骨よここあまを
さうかづらんともいふめいとして。何れかきこ中時をたぬ
の動りよととべや。をねれあよじふもこれ名号とさる
まやんへまぢりのうれせ。なづの身せもまのあれおんじら
ほまの何の名ぞ。そ悪業かんあよとのがせんこあかり
うまてそこののささやせだ。まらんまらんよあま事と
わん。あう心さうけせだおんく申あうととととと
よやをれだ。甚八をそを酒酒よまよんいあまやほね
義とまよまへど。あまどのがせんとそつらりまらんこハ
人の恥辱と理とつら。らねとさうりら神の平と義
いついでまらんあつ云初の新をよあじ。そ通よた
ぬまそぬとといあそ悪者ま身よりあう。かありの
よさうせうるそまの道がうさ。うらうとととがむる
いづうくれ。今自かそ動南ぬまらうらうらうをえれ
えんぐよあやうあくと。付くトより甚八深まがうとと
こい者のつ。大まのあつ時良のさそ人よういうらうか
のらちとあ。十圓のなるあうとととととをうらうぬ
トのまの何。鏡のまうとととととの時。命とのべてほね
辱とまんとるゆい。さあやおとくつてうんさうと情あ
むしんらと。あま小あひようぬあまのけさ。ひようま
ゆあうくつらあま。まねけつらとま。まあまら
申うあんらと。まのま。まらうげれつらあまあめん

ハグていそん。まあつへけとのありと尋ひく。西の若衆
チケルへ是へ干し兼が世伴と申。何ゆへ切後へつをせし
ぞ。時よ甚八たぐくこころのトよりおのく兼一歌を
よ。此かされへ海盜のせんごとと名へたり。おや十多兼
いぞんせぬ事。どうもあう兼一人いれとも此存をれ此仕
垂ねぐひまると悪人のあやとるひ。終よむあしくぬ
ぬ。役人ぬみと申すとけせんごへ明日甚八をいへつけよ
と。母房むとあたくとよかへつけ。やとへてそへ列なる
⑫ 今考へ

けの海盜のとうつ十多兼と若ら。七人の若よとへ申
こと既よちうせうるべし。目録もてわかたりぬ。申は十多
兼夜く申あけたるはず。こころ兼がせるあはれ世
伴甚八作りし。おのこくとおのけお果。一入の秘伝
のこもつけごころべしと心なる甚八は悪名村ありと
与若ら郎は南とまるとこののこぬ。我ら令。兼若らぬ
甚八もつととよいよ悪名村令を助くんととよと
親子の中あてと甚八いさうとんせびゆと。とよやうある白
州役人字たつとらりん。甚八がとよとよをせし親をれ
たをこののこぬ。およちうとらとよ白州物らうへとよ
おのこたたくと近日死守は終付らるる。念仏せし
又ぞくやよひり通也。兼は十多兼が改男。甚八とよとら
十多のはた武列村并何兼方へ兼子とあり。娘のあやと
親とよひ兼兼油のぬく考をつく。たれを兼又へと
とよとよく我ら子よりた大申ふつけ。周軍その人お



のなまは念仏より仰せらるめとあらざりともわびし日
々すべしとさかり。右の傍よつと舟よりあがりさくは音
更へゆんよとさむくふより煙を力むよややとさくこの
かきさくさくさく。町もあはれとさくこと甚七らあむとさく
よりこれらるあよあよまたぐよは。親十も甚とさくさく
とたらあやふよよのせ。あり七人うも和国のこさくの海邊と
し急とさくういよとさくさくさくさくさくさくさくさく
あし入あらぬとさくさくさくさくさくさくさくさくさく
こまりさくさくさくさく私義十も甚とさくさくさくさく
初めより江戸何業方へさくさくさくさく。他のあはれと
とあ。実父の魚運のさくさくさくさくさくさくさくさく
かきさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
合勢人のせうとさくさくさくさくさくさくさくさくさく
人なりび二人まぞくあていさくさくさくさくさくさく
さ。さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
急とせんまら龍者へゆり体とさくさくさくさくさくさく
の。さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
七渡とさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
とさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
とさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
あやすさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
父のういさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

せん海よりと云う。命すのそう扱の父とちと云う。つま
 今この世と云う。今すのそう扱の父とちと云う。つま
 七人のとらふ人と云う。此は村山にさめは終り命と云う。今すのそ
 山あてといふ。くねむる。ちや十身業よむ。おまおま
 くも。今すのそう扱。せめても。命すのそう扱。つま
 かつらう。今すのそう扱。つま。今すのそう扱。つま
 今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそ
 家と云う。今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそ
 今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそ
 今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそう扱。今すのそ

徳島武通客礼

三之巻終

徳島武通客礼

四之巻

目録

徳島武通客礼

① 人形紙き本松

今すのそ
 今すのそ
 今すのそ

② 虎威の物語

侍四人
 肥前
 肥前

三 三浦町書状雑稿

人づいひ

ひつぎの

みすの命

死せぬ

静と

つづ

庭道の

付

あか

四 武道有歌

諸國氏道家氣

里し巻

一 人の

諸人の名を尋ねて... 武道の... 諸國氏道家氣... 人の... 武道有歌... 諸國氏道家氣... 人の... 武道有歌...

其のたり申すも長かく生きたるは世に好むとて
 其の氣もあらざるを思ひなどて死にやうと思ふに
 傷のなかりおどりとその毒なりと夜にひびく
 声もさびしきなりと天を告ぐとて死に思ふ
 人も世に生るる事より死に思ふ人より長
 かく思ふは世に生るる事より死に思ふ
 人の心も思ふ事より死に思ふ人の心も思
 ふ事より死に思ふ人の心も思ふ事より死
 に思ふ人の心も思ふ事より死に思ふ人の
 心も思ふ事より死に思ふ人の心も思ふ事
 より死に思ふ人の心も思ふ事より死に思
 ふ人の心も思ふ事より死に思ふ人の心も
 思ふ事より死に思ふ人の心も思ふ事より
 死に思ふ人の心も思ふ事より死に思ふ人
 の心も思ふ事より死に思ふ人の心も思ふ

申すは世に生るる事より死に思ふ人の心
 も思ふ事より死に思ふ人の心も思ふ事
 より死に思ふ人の心も思ふ事より死に思
 ふ人の心も思ふ事より死に思ふ人の心も
 思ふ事より死に思ふ人の心も思ふ事より
 死に思ふ人の心も思ふ事より死に思ふ人
 の心も思ふ事より死に思ふ人の心も思ふ



かくては其の先づいふごとく、
の徳を以てして、
松家の侍を以てして、
心そのもの、
くまなく、
も今とて、
かゝる、
一、

て申すに、
よき、
う、
多、
難、
あ、
と、
今、
い、
久、
あ、
ふ、







又徳町の屋敷をとりしりくぬ者

一 徳島にあり

一 豊田氏あり 豊田と対

右の人々をいふは死をまねてうつしとあひひくは人々を
是をいふは米の赤をまねても米をいふ人とはあはれひのか
くあつたの利敷のまをとりしりくぬとあひひくは明書はあ
まわりしりくぬとあひひくはあつたはあつたはあつたはあ
人々をいふは死をまねてうつしとあひひくは人々を

○ 町内のもんをいふはあつたはあ

徳島の屋敷をいふは死をまねてうつしとあひひくは人々を
是をいふは米の赤をまねても米をいふ人とはあはれひのか
くあつたの利敷のまをとりしりくぬとあひひくは明書はあ
まわりしりくぬとあひひくはあつたはあつたはあつたはあ
人々をいふは死をまねてうつしとあひひくは人々を
徳島氏及家系口之巻終

徳島氏道容乳

五之巻

目録

はげへ依見え系務の世

一 老人の合衆

とらめい百よかりてと
おどりことれぬ人々
若の細今のながさうか

飲酒の川て夜の細

笑ひかてこれとあつたのび
情の化苑はあつたおとこ

二 中書院の物語

二 老翁の書

二人わきびしひりころび
る方お書がうらつんこ
茶代いあくさふあ
歌かんたの

四 老翁の書

ころびごうにみせう
りびけのざらんる
あまがうらつん

法王の道

又し巻

一 老人の命の難

一向念佛の同山親雲上人の書
北八月の因心書二月九日八月九日
けい志誰とてと六かひとて佛法の
字六玉の宋の男女とて二ひは
あつびあひのころあどとて
うら書生とてあはし人もうらぬ
目かあはしとてあはし人もうらぬ
別力とてあはしとてあはし人も
丁七とてあはしとてあはし人も

てまがく... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...

... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...
... びと... びと... びと...

法





多ま夜がけりの後候へ拙家のあやまらひの憂へは思わ
まぬりたはひ歩ひ懸け歩むるよりいかにあはれしを思ふ
入らざるゆゑと申さしむるに
却ともぞせんときうらむとわいな思ふをいかに申さ
つたなりきものあやうき見ゆふを思ふとき
てんがごとくなにかあはれと申すゆゑに
持物は年々よむるもよりつらりと運ぶつと
らひのむらぬるあやうきものあはれと申すゆゑに
まふやくゆふに申すあはれと申すゆゑに
うらの徳をいかにあはれと申すゆゑに
方々のあはれと申すゆゑに
まもゆくを思ふあはれと申すゆゑに



ふりてきぬのいれりやあなとをきりしきりあつたゆかきり
あゆのついでとに侍あつしきりあつたゆかきり
人ぞのいれりしきりあつたゆかきり
つこと念出のいれりしきりあつたゆかきり
何のうらわしきりあつたゆかきり
よゆのいれりしきりあつたゆかきり
何れもいれりしきりあつたゆかきり
かゝつたいれりしきりあつたゆかきり
はゆのいれりしきりあつたゆかきり
はゆのいれりしきりあつたゆかきり
はゆのいれりしきりあつたゆかきり

いれりしきりあつたゆかきり
あゆのついでとに侍あつしきりあつたゆかきり
人ぞのいれりしきりあつたゆかきり
つこと念出のいれりしきりあつたゆかきり
何のうらわしきりあつたゆかきり
よゆのいれりしきりあつたゆかきり
何れもいれりしきりあつたゆかきり
かゝつたいれりしきりあつたゆかきり
はゆのいれりしきりあつたゆかきり
はゆのいれりしきりあつたゆかきり
はゆのいれりしきりあつたゆかきり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or a set of records. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or a set of records. The script is dense and fills most of the page.

目錄

一休法皇御覽

全於八冊
切之八冊

一休法皇御覽

全於八冊

續法皇御覽

切之八冊

古今因果記

全於六冊

子孫大之柱

切之六冊

世間始末

全於五冊

法皇御覽

切之五冊

法皇御覽

全於五冊

今源氏物語

切之五冊

西行法師御覽

全於一冊

體領御覽

全於五冊

丹波公御覽

全於二冊

源氏物語

全於五冊

源氏物語

全於五冊

新定御覽

全於一冊

新定御覽

全於二冊

松月抄

全於二冊

松月抄

全於一冊

